

なかよく

ゆたかに

たくましく

心を育てる保育

『人権を大切にする心を育てる保育』

菊陽町立保育所なかよし園では、18年の育ちを保障するために、家庭や学校・地域と連携、協力しながら、一人ひとりと向き合い、基本的な生活習慣の確立、つまきたいそうや生活画、サークルタイムなどを通して、お互いを知り、つながり合う体験を積み重ねています。安心して過ごせる居場所づくり、集団づくりを目指し、日々の保育を行っています。

『生きる力を育てる』

- ①子どもを主体とした保育実践
- ②健全な体と心の育成
- ③人権を大切にする心の育成
- ④個に応じた支援



つまきたいそう

目と目を合わせ、手と手をつなぎ、互いのぬくもりを感じながら、『つまきたいそう』をしています。保育士とのふれあいを楽しんだり、子ども同士で楽しむ姿があります。保育士の歌に合わせて一緒に歌を口ずさみ、友だちにも安心して身をゆだねている姿は、安心が土台となったつながりを感じます。



生長と収穫の喜び

【菜園活動】

園庭の畑に子どもたちと話し合いをしながら野菜を育てています。実ったすいかの収穫でつるのかたさをハサミで感じ、切れるとすぐに持ち上げ「おいしい…」といいながら、友だちと嬉しそうににおいを嗅ぎ合っていました。すいかを切ると、切った断面から色・種の並び、においなどそれぞれに興味を伝え合う姿もありました。「あま〜い」と言いながら、自分が食べたすいかに種がいくつ入っているか数え始め、友だちと多い…少ない…と比べていました。

「1、2、3・・・
21こだ！」



自然にふれ、遊びを通して学ぶ子どもたち

外遊び中に隣接する田んぼを泳ぐ虫に気づき、「何かいる！」と、早速網とバケツを持って探しに行きました。見つけたのは、おたまじゃくしやアメンボです。園に連れて帰り、図鑑を見ながら飼育を始めました。しかし数日後、「なんで生きられなかったのだろう？」と考えている子どもたちの姿があり、命について考えました。

後日、再び田んぼに生き物を探しに行きました。今回はヤゴとタモロコ(小魚)、おたまじゃくしを見つけました。前回の経験から、水槽や容器を分け、図鑑を見て「おたまじゃくしはカエルになるから岸を作ろう」「ヤゴは止まり木がいるね」と生態にあった飼育環境にしていました。友だちと飼育環境を考え、準備をしたことで、おたまじゃくしの成長やヤゴがトンボに羽化する様子を観察することができ、成長の過程を伝え合いながら喜び合っていました。そして、トンボやカエルは「外に逃してあげよう」「大丈夫かな」と、思いを馳せながら自然に戻していました。遊びや生活の中で、自然や生き物との出会い、様々な経験を通して学んでいる子どもたちです。

